

2015年11月5日

(ご参考)

マツダ株式会社
2016年3月期 第2四半期決算説明会
(スピーチ要旨)

代表取締役 副社長執行役員
丸本 明

1. 総括

第2四半期累計の総括です。

グローバル販売台数は対前年14%増の76万4千台と、上期として過去最高の販売実績となりました。新型Mazda2のグローバルでの本格販売に加え、新型CX-3および新型ロードスターのグローバル導入による台数貢献と、Mazda6、CX-5の商品改良モデルが好調な販売を継続していることによるものです。

財務実績では、売上高は1兆7,005億円、営業利益は1,259億円、当期純利益は883億円となりました。中間配当につきましては計画通り15円です。

通期見通しの総括です。

グローバル販売台数は上期の好調な販売を受け、期初計画を2万5千台上回る151万5千台に上方修正します。通期営業利益の見通しも2,300億円、当期純利益1,550億円に修正します。

国内外の主要生産拠点の稼働を向上し、グローバルでの販売拡大をサポートします。

直近では、クロスオーバー系モデルの需要増に対応するために、タイのAAT工場での新型CX-3の生産を開始しています。

新型モデルの拡充と共に、SKYACTIV技術およびデザインの進化も着実に進めており、常に最新の技術とデザインをお客様にお届けする戦略を強化していきます。

また、次世代商品に搭載する「SKYACTIV Gen2」の技術開発も計画通り進めており、今期より本格化させてまいります。

常務執行役員

古玉 尚

2. 2016年3月期 第2四半期累計実績

連結売上高は、対前年17%増の1兆7,005億円、営業利益は1,259億円と対前年で219億円の改善となりました。経常利益は1,211億円、税引前利益は1,163億円、当期純利益は883億円です。

為替レートは平均で1ドル122円、1ユーロ135円と、前年に比べドルで19円の円安、ユーロで4円の円高となりました。

グローバル販売台数は、対前年14%増の76万4千台です。グローバルで販売が本格化した新型Mazda2/デミオの台数貢献に加えて、新型CX-3、新型MX-5/ロードスターのグローバル導入により大幅な販売増となりました。また、Mazda3/アクセラも、その他地域を含めグローバルで十分な供給体制が整ったことで、対前年で販売を拡大しています。地域別では、ロシアを除くほぼすべての地域で、前年の販売実績を上回っております。

続いて、各マーケットの状況について説明します。

まず日本ですが、対前年33%増の12万台の販売となりました。需要が前年を下回るなかで、登録車シェアは対前年で2.4ポイント増加の6.8%と着実に販売を伸ばしております。新型デミオ、新型CX-3に加え、新型ロードスターの販売も好調に推移しております。

北米では、対前年3%増の23万3千台の販売となりました。そのうち、米国は、前年並みの16万4千台です。CX-5、Mazda6の商品改良モデルの販売が好調で、上級グレードの販売比率が増加していることもあり、ネットレベニューが向上しています。また、新型MX-5と新型CX-3を新たに導入し、好調な滑り出しです。正価販売方針は今後も継続してまいります。

メキシコでは、対前年37%増の2万7千台となりました。Mazda3とCX-5の販売が好調で、過去最高の販売台数とシェアを達成いたしました。

欧州では、対前年8%増の12万4千台ですが、ロシアを除く欧州では、新型Mazda2と新型CX-3が販売を牽引し、販売台数は11万台、対前年では21%の増加と大幅な販売拡大となりました。ドイツでは対前年11%増の3万台、英国では対前年23%増の2万3千台と、堅調に販売を伸ばしています。

中国では、対前年16%増の10万9千台の販売となりました。

景気減速により需要が低迷するなか、8か月連続で前年を上回る販売実績です。

Mazda3の販売が、引き続き好調に推移しており、また、CX-5の商品改良モデルやMazda6も販売に貢献しております。

その他市場では、対前年24%増の17万8千台の販売となりました。
オーストラリアでは、対前年17%増の5万8千台でシェアは9.9%です。CX-5は引き続きSUVセグメントでの販売台数1位を獲得し、新型CX-3の販売も好調に推移しております。
ASEANでは、タイや、インドネシアなどの需要が減少しているなかでも対前年を上回る販売となり、ベトナム、マレーシアでは過去最高の販売台数を達成いたしました。
その他市場では、Mazda3やCX-5が好調で、サウジアラビア、コロンビアでも、過去最高の販売台数を達成しています。

連結営業利益の前年に対する増加額219億円の主な要因について説明します。
台数・構成では、グローバルでの販売拡大により266億円の改善となりました。
為替は、USDで110億円改善しましたが、ユーロで47億円、その他通貨で178億円悪化し、合計で115億円の悪化です。
変動コスト領域では、原材料価格の値下げやコスト改善の進捗により156億円改善しました。
販売費用は、新型Mazda2や新型CX-3のローンチに伴う広告宣伝費の増加により56億円の費用増となりました。
その他固定費領域では、メキシコやタイの新工場での減価償却費の増加等により32億円の費用増となりました。

期初公表からの営業利益309億円の増加要因について説明します。
台数・構成では、グローバルでの販売拡大により66億円の改善となりました。
為替は、上期の想定レートより円安方向となり、USDで9億円、ユーロで32億円、その他通貨で24億円改善し、合計で65億円の改善となりました。
変動コスト領域では原材料価格の値下げやコスト改善の進捗により74億円の改善、販売費用では24億円改善いたしました。
その他固定費領域では、主に上期に予定していた研究開発のタイミングを見直したことなどにより80億円の改善となりました。

3. 2016年3月期 通期見通し

グローバル販売台数は通期151万5千台と、期初計画から2万5千台上方修正いたします。
上期のMazda2、CX-3、ロードスター等の新型車効果やCX-5、Mazda6の商品改良モデルの好調、Mazda3の台数増などの販売モメンタムは維持しつつ、下期では中国経済の減速や新興国でのビジネス環境の悪化を見込んでいます。
正価販売方針により規律を保った販売価格を維持しつつ、対前年8%増の販売拡大を目指します。

財務指標についても、通期見通しを修正いたします。
売上高は3兆3,700億円、営業利益は2,300億円と期初計画2,100億円から200億円増加する見通しです。経常利益は2,300億円、当期純利益は1,550億円です。
為替前提は、下期をUSD120円、ユーロ135円としています。

前年からの営業利益改善271億円の要因を説明します。

台数・構成では、新型Mazda2、CX-3の通年販売貢献等により、570億円の改善を見込んでいます。為替は、USDドルで133億円の改善ですが、ユーロで77億円、その他通貨で412億円の悪化と、合計で356億円悪化する見込みです。

変動コスト領域では、原材料の値下げや生産台数増加によるコスト改善の進捗等により314億円改善の見込みです。

販売費用は、期初計画から変更はありません。

その他固定費は、将来に向けた開発費の強化やメキシコ等新工場の減価償却費等により257億円増加する見込みです。

期初公表からの営業利益変動200億円の要因について説明します。

台数・構成では、グローバルでの販売拡大により170億円の改善見込みです。

為替は、上期/下期で、プラス/マイナスがあるものの、通期では16億円の悪化見込みです。

変動コスト領域では、原材料の値下げやコスト改善の進捗により159億円の改善見込みです。

その他固定費では、お客様対応費用等で113億円の増加を見込んでおります。

代表取締役 副社長執行役員

丸本 明

4. 主要施策の進捗状況

「構造改革」主要施策の進捗状況についてご説明します。

SKYACTIVによるビジネス革新を着実に進めています。商品面では、SKYACTIVモデルを拡充させながら、既存商品の継続的進化を進めています。CX-3と新型ロードスターをグローバル投入し、お客様から高評価を得ると同時に、台数と収益を向上させています。

今月、ロサンゼルスショーで新型CX-9を公開いたします。また、Mazda6/アテンザ、CX-5は商品改良モデル等の投入では、評判も高く、上級グレードの販売比率が増加しています。この戦略は、全てのSKYACTIVモデルに対し、継続強化してまいります。

先進/安全技術を進化させながら、投入拡大し、ネットレベニューや商品収益力は向上しています。

グローバル販売・ネットワーク強化についても取り組みを加速しています。

販売を拡大しつつ、商品改良モデルでは、インセンティブを抑制し、ネットレベニューを改善するなど、正価販売を継続しています。

中古車残価も各セグメントのトップレベルで推移しています。

ブランドコミュニケーションやカスタマーケア強化策をグローバルに展開しています。

グローバルでの販売拡大に対応して、タイのAAT工場で新型CX-3を、同じくタイの新パワートレイン工場ではエンジンの生産を開始するなど、生産体制の再構築を進めています。

メキシコ工場ではトヨタ社向け小型車の生産を開始し、本社工場ではフィアット・クライスラー社向けの生産準備も進むなど、グローバルアライアンスも順調です。

持続的成長に向けた投資は維持しながら、自己資本の充実を図るとともに、キャッシュフロー創出力も向上するなど、財務基盤の強化は計画通り進捗しています。

5. まとめ

第2四半期累計のグローバル販売台数は、76万4千台と対前年14%の増加となりました。

営業利益は1,259億円、当期純利益は883億円と計画を上回る進捗です。

通期見通しでは、グローバル販売台数は期初計画を2万5千台上回る151万5千台に上方修正します。

利益見通しも、営業利益は2,300億円、当期純利益は1,550億円で修正いたします。

持続的成長に向けて、既存商品の技術やデザインの進化、次世代技術開発、国内外の生産体制の強化やグローバルアライアンスなど構造改革の主要施策を着実に推進します。

経済環境や需要動向など外部環境に厳しさはありますが、良好なモデルサイクルによる

販売モメンタムを維持し、通期計画の達成とブランド価値向上に向けてマツダグループをあげて

取り組んでまいります。

以上